

神奈川からがんをなくす会 (ACクラブ)

総 括

ACクラブ発足後18年が経過した。平成15年度の
新入会員は12名（男7名、女5名）である。

検診項目別にみると男性では消化器と肺の検診者が73.6%、肺のみ21.7%。女性では消化器と子宮、乳の検診者が63.1%、消化器、肺、子宮、乳がんの検診者が17.9%で昨年度とほぼ同様である。

年齢階層級別にみると男性は70歳代前半が最も多く60歳代後半、60歳代前半がこれに続く。女性は60歳代後半が最も多く、70歳代前半がこれに続く。会員全体では72.8%が60歳以上である。

付加検診の利用者は226名で、昨年度と変わらず。

オプション項目であるPSAによる前立腺スクリーニング検査の受診者は56名、精検の対象となるPSA値8.0ng/mlを超えるものはみられなかった。同じくオプション項目骨粗鬆症予防検査受診者は16名。

本年度のACクラブの検診では肺がん1名、大腸がん1名が発見された。

消化器がん検診

平成15年度に、消化器がん検診として胃X線または内視鏡を受診したのは218名（男117名、女101名）で、胃がんの発見はなかった。

腹部超音波検査を受けたのは277名（男157名、女120名）で肝臓・胆のう・膵臓・腎臓のがんはみられなかった。

大腸がん検診としての便検査をうけた297名（男168名、女129名）のうち、便潜血陽性の22名から大腸がん1例と大腸ポリープ10例がみられた。

肺がん検診

精密総合健診の対象と較べて大きな差異は年齢層の分布にある。即ち、60歳以上が際立って多くみられる。これはがんを意識する年齢層の高さにもよるが継続受診を最も重要な検診のポイントとするACCの特徴が受診者にもよく浸透しているためと思われる。検診発見による所見上、問題とすべきは炎症様陰影、微細所見、疑問陰影などがあるが、こ

れらはいずれもCT検査による所見でその段階以上は生検以外には診断は不可能であり、しかし明らかに悪性像を考えるのではないために経過観察を要する所見としての範疇としている。CT検査は所見が極めて微小であるがために提起される特種なテーマである。そのために判断した一定期間の後の検査は大変重要な意味をもっている。

乳がん検診

初回検診者は7名、再検者は115名である。精検及び半年以内の再検者は1名である。

ACクラブ発足時の昭和61年度に初回検診を受けた94名のうち25名が平成15年度に受診し、そのうち11名が18年間連続受診している。昭和62年度初回受診の81名では20名が平成15年度に受診し、うち7名が17年間連続受診している。平成1年度に初回受診の20名では6名が平成15年度に受診し、うち3名が連続受診している。平成3年度に初回受診の15名では7名が平成15年度に受診し、13年連続受診は1名。

ACクラブ発足後18年間の乳がん検診受診者実数（会員数）は373名で、延観察数2682名、発見乳がんは11名、がん発見率は0.41%（乳がん数／延観察数）である。

子宮がん検診

2003年度のACクラブ女性受診数142名中、子宮頸がん受診者数は98名（69%）である。この内91名が同時に子宮体がん検診を受診した。受診パターンは、消化器・子宮の組み合わせ（78%）、消化器・肺・子宮の組み合わせ（20%）、子宮単独（2%）であった。検診の結果、頸部細胞診では、要精検0名・要再検1名であったが、体部細胞診では、全例精検不要であった。1名の要再検例は年度末出現のため、年度内の病変有無確定はできなかった。その他の疾患として、子宮筋腫3名、頸管ポリープ2名、膣炎2名が経過観察中である。

関係の集計表は93頁に掲載